

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年9月3日 (2009.9.3)

【公表番号】特表2006-511196(P2006-511196A)

【公表日】平成18年4月6日 (2006.4.6)

【年通号数】公開・登録公報2006-014

【出願番号】特願2004-509714(P2004-509714)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/18 (2006.01)

A 6 1 P 1/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/10 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/47

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 A

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 1/18

A 6 1 P 1/00

A 6 1 P 13/10

C 0 7 K 16/18

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年7月14日 (2009.7.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 9】

(1 又は 2 以上の) アミノ酸の変異は、その変異がペプチドの免疫原性に影響を与えな

いように、言い換えると、ペプチドが、M H C 分子に対する同程度の結合能及び T 細胞刺激能を示すように選択される。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 9】

別の好ましい形態として、抗原提示細胞上（表面）に結合されたペプチドが投与される

。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】請求項 1 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 0】

抗原提示細胞上に結合されたペプチドが使用されることを特徴とする請求項 7 又は 8 記載のペプチドの使用。